

特別  
~13  
4148  
2



13  
4148  
2

好色旅日記目録

卷二

一 町<sup>ちやう</sup>の<sup>の</sup>綿<sup>わた</sup>者<sup>もの</sup>の<sup>の</sup>歌<sup>うた</sup>

よふの<sup>の</sup>精<sup>せい</sup>を<sup>を</sup>よこ<sup>ま</sup>つこ  
この

二 地<sup>ち</sup>と<sup>と</sup>書<sup>か</sup>の<sup>の</sup>帳<sup>ちやう</sup>面<sup>めん</sup>

あつと<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>が<sup>が</sup>あ

三 昼<sup>ひる</sup>居<sup>ゐ</sup>眠<sup>ね</sup>の<sup>の</sup>女<sup>め</sup>

午<sup>ひる</sup>房<sup>ぼう</sup>め<sup>め</sup>は<sup>は</sup>あ<sup>あ</sup>ひ<sup>ひ</sup>と<sup>と</sup>  
と

アキ

56-4106



好色旅日記卷二

寢覚へく太鼓乃にむかふ中をたて  
いざうつれよちうとたふあまうへまご  
えりよあうらうら。東より都の番ちが太  
あつびするらん。考乃さとしんちうまぬ都て  
はあへらうげ仕ちうやの楽隠居なぬ乃  
独作。考し守者の儀をんぬれ引ぬうり。  
有義に盡乃げごとのつひを合利をま  
うそこ。一。野中のけううひとみるのこうれ  
浮せよらうらぬりの。結白の塔所とくられ  
とせり。さしめを凌念彌乃死國よ海

④ 下界の稲妻

系鞠うまおひとあ

笑り

⑤ 振神とけきさびうり

時折の悪作

笑





ひるまのつゝも湯がらつゝあわとまことらしてと  
言のまねて物らう。まこと朝こららるる  
して。ね後さく

生物よ油改乃なるぬ世の中。びま草公界  
十の乃らうめいさくび種とりよ物の後と  
うけ多物あら。昔らるるが金銀さう銀と  
らうりも。ゆりあがりかすらう。まね。い川乃  
まよう。指系と地の延張よ石筆と靴まう  
し。昔のの小づひ腰移んらあるふあをえ  
それらどう。ふあけまを人のたまこと  
てはまぬひまうり。これららあ。まことらうらあ

あさず。時くの火覚源が羽折今と仕あびて  
う。これ程よきた女房の肉とれさあぐ  
皮をゆが二季れさくひふ。さく物程け込  
と。さめして居一時とらちがひ。さうけあ  
よ。さどのらあらと。またのら。んぞう

○大坂よりひらうへ 八里 いり 八十里 糸かけ百七十五  
うら 鹿百十三文  
人さく 八十三文

ひらうへきらうの橋柱とさうひ 穂むらり  
むらりよはにれまのよゆせあ。あけ なるれ  
の母さう。かりひあうまてうら  
ひらうへの入はよほまのひらうへきらうへ

花のうらみとらみしあまの川。海をあらはせん  
とらみしうらみとらみしあまの川。海をあらはせん

○ 花のうらみとらみしあまの川 三里

花のうらみとらみしあまの川  
海をあらはせん

花のうらみとらみしあまの川。海をあらはせん  
とらみしうらみとらみしあまの川。海をあらはせん

○ 花のうらみとらみしあまの川 三里  
海をあらはせん

花のうらみとらみしあまの川。海をあらはせん  
とらみしうらみとらみしあまの川。海をあらはせん

花のうらみとらみしあまの川。海をあらはせん  
とらみしうらみとらみしあまの川。海をあらはせん

花のうらみとらみしあまの川。海をあらはせん  
とらみしうらみとらみしあまの川。海をあらはせん









とあり深き海の下れ白ハグとく一れ名  
でもとれざん せぬり

○系より文津へ 三里

系より文津へ  
三里  
系より文津へ  
三里

三系乃橋より白川よりとらとらり。白川。  
觀禪寺。水鏡堂。やぐらうらうら。田舎  
一乃たあり。右ハ智母院へのたあり  
系同にはありたのこに時智が場あり  
たのこよは池あげの水。うらうら。系系と  
うんうとたさるわ。西へあんきけとさり  
まあをたに。夜とるり。たあ乃。系系とさり  
こふよとあめせて。こがれ免とあさるわ。と

るや。系とらせよのうれ人よとくハナセとこ  
りけ。女とらふ諸を

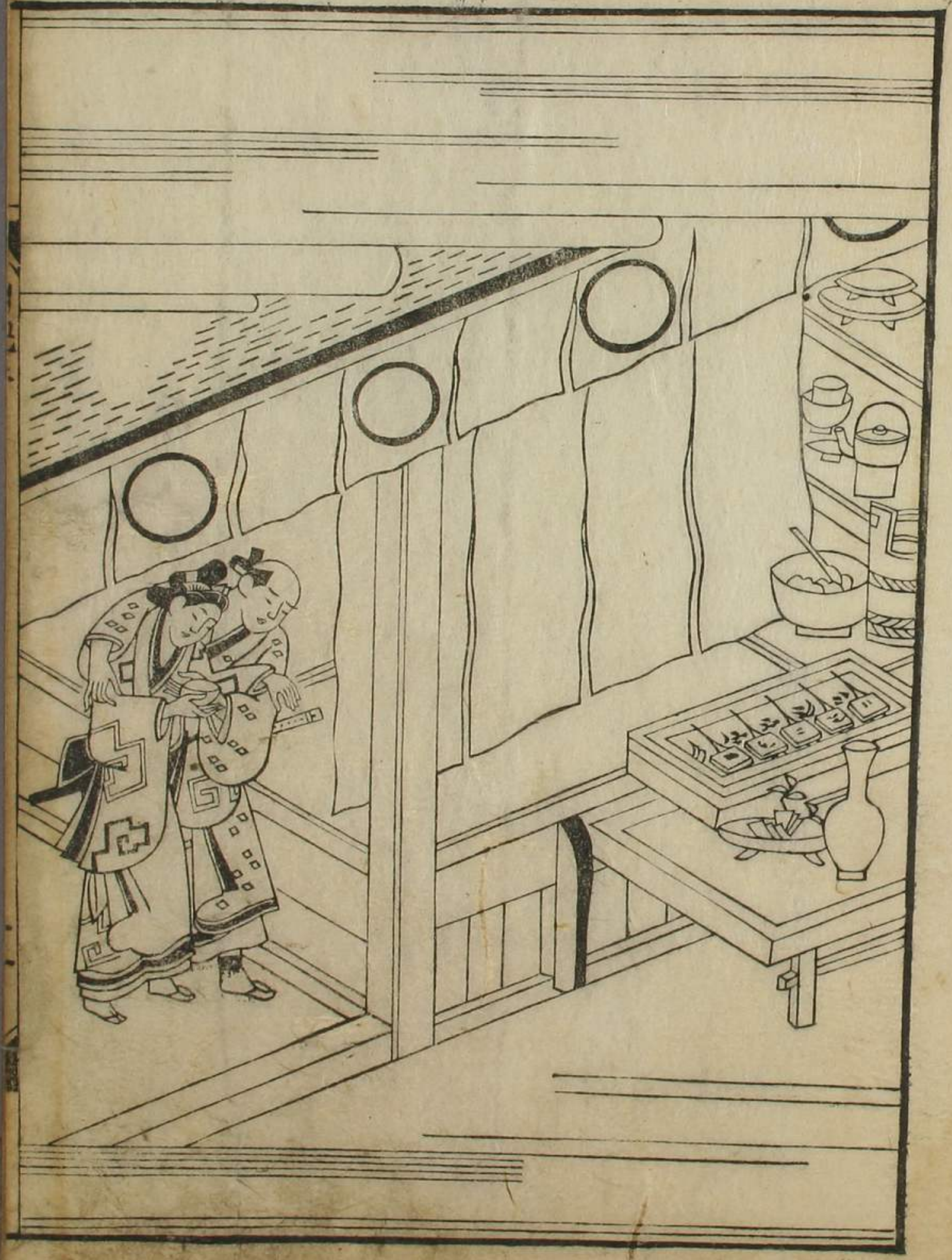
目の系まで系より一里

昨廟野。一八百人一首の口ふれり。ゆす  
系とら海の虚をよとえやうけ方あうをた  
幸あつと。たらのとらこ。系とら

山科。菽の下た。こた。物。は。こ。さ。み。を。の。ん  
て。柳。と。や。け。む。ち。や。の。と。さ。ん。と。ら。て。ち。さ。ふ  
を。り。丹。波。の。こ。と。さ。ん

右乃このたのち。系とら。系とら。系とら。系とら  
左乃やの二系。これ系とらのめとら。系とら

けんをすすゆよまけず。たのたの毘沙門堂  
 所つ徳つごめ様。あまの三井守よりくる  
 けりさる。さくし。口のまや。何原十瀬。さよき地  
 ちちり遊りけ。い。休ん。のたせ  
 ち。一。里井の。安。安。丸。と。り。ひ。一。葉。う。る。  
 あ。で。つ。け。る。う。こ。強。お。の。り。さ。か。ひ。の。ま。い。後。  
 とう。あ。が。ち。な。た。が。み。り。お。り。ぐ。あ。の。後。の。  
 た。め。園。守。さ。ま。ま。小。町。ぐ。り。わ。の。あ。と。あり  
 女の。ん。づ。う。ひ。と。カ。ワ。さ。ご。う。は。さ。れ。ぬ。ハ。ご。り  
 ころ。綿。帳。の。う。ら。み。そ。い。の。あ。り。さ。ら。よ。さ  
 念。と。て。あ。る。ふ。と。あ。ゆ。よ。い。事。と。せ。あ。ん。ご。張





何みざり此天月魚おどし水茶屋らしし此よ先いさる  
魚の白さうり神よあまびに男あまより喰いとまのさ  
海らうりとおつる暖屋の奥こらにたを相うあせよ  
る所どぞとじさんどつやはまてげ女のおらるる  
おろくじやとぞとつおあやうあしぬくてまづ海ま  
とませとのぶだうあしあのおらぬしとあへ茶とね  
さうらと茶屋のさうらとせるとぞれさうらと  
としてこらにざりのあまぬさうら。時あぬ娘を  
めづらうぬらなりぞぬる代にうねとらうら  
海者ともよとらうら。さ茶屋の茶屋よ  
しとあらうらとら海をぬとかり

